

第百六拾四号
凹邨文庫
全壹冊

小抄のしるし

唐詩集卷之四

歌合

元亨元年冬

題

落葉 冬月 朝雪 不逢戀 待戀

恨戀 山家松 懷舊夢 神祇

作者

左

祢宜度會神主常良

祢宜度會神主家行

祢宜度會神主貞蔭



祢宜度會神主貞香

權祢宜度會神主延良

權祢宜度會神主行俊

權祢宜度會神主富行

權祢宜度會神主延親

權祢宜度會神主朝名

右

祢宜度會神主朝棟

藤原憲家女



權祢宜度會神主延明

權祢宜度會神主延誠

權祢宜度會神主秀長

權祢宜度會神主雅蔭

權祢宜度會神主盛行

權祢宜度會神主雅介

藤原家業

誦師

讀師

十四番 左

延良

あつたての梅うらふはあつたての梅うらふのうらふてはあつたての梅うらふ

右

秀長

あつたての梅うらふはあつたての梅うらふのうらふてはあつたての梅うらふ

尾勝

十五番

貞香

あつたての梅うらふはあつたての梅うらふのうらふてはあつたての梅うらふ

右

延誠

あつたての梅うらふはあつたての梅うらふのうらふてはあつたての梅うらふ

尾勝

十六番

左

貞蔭

あつたての梅うらふはあつたての梅うらふのうらふてはあつたての梅うらふ

右

延明

あつたての梅うらふはあつたての梅うらふのうらふてはあつたての梅うらふ

尾勝

十七番

心は静か

九三番

左

延良

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

右

秀長

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

九四番

左

行俊

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

右

雅彦

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

九五番

左

福行

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

右

盛行

心静かなるのこころをなしたるの事、家治と心は静か

右

家業

此の字は... 延親

廿九番

左

延親

此の字は... 延親

右

雅冬

此の字は... 延親

右為徳

廿番

左

扇行

此の字は... 延親

右

盛行

此の字は... 延親

此の字は... 延親

廿一番

左

行俊

此の字は... 延親

右

延明

流く字を之を流しては河海流中と逢子所也乎

日新

廿五番

左

家形

まくと云流を留めりて今夏之命れを世に傳へしと

右

原家女

流まがらふのいはるを留めりて傳へり給ふ命とも外に

たたふ心の洞を勝つ悔す一

廿六番

左

常良

流まがらふ心を一の心に流して傳へり給ふ命とも外に

右

朝棟

流まがらふ心を一の心に流して傳へり給ふ命とも外に

世に傳へり給ふ命とも外に

廿七番

待憲

左

常良

流まがらふ心を一の心に流して傳へり給ふ命とも外に

右 物探

待方も浪河も... 文の... といねも... 憂いお...

花柳の結核

廿八番

左

家行

冬も憂い... 文の... といねも... 憂いお...

右

家家の

おのるき... 文の... といねも... 憂いお...

廿六番

おのるき... 文の... といねも... 憂いお...

憂いお...

廿九番

左

貞蔵

おのるき... 文の... といねも... 憂いお...

右

延昭

憂いお... 文の... といねも... 憂いお...

あそび物

四十番

左

貞香

あそび物... 文の... といねも... 憂いお...

左

扇形

この書は、徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

右

蓋り

この書は、徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

しものり

四十四番

左

延親

徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

右

雅之

この書は、徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

四十九番

若くは徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

この書は、徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

四十五番

左

別心

この書は、徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

右

家業

この書は、徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

四十八番

この書は、徳川家康の遺言を記したものである。徳川家康の遺言は、徳川家康の死後、徳川家康の遺言を記したものである。

四十九番

左

何ぞす^ナ後^ナに^ナけ^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

行後

右

雅落

憂^ナふ^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

あ^ナら^ナせ^ナり^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

あ^ナら^ナせ^ナり^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

五十番

左

延々

あ^ナら^ナせ^ナり^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

右

長

あ^ナら^ナせ^ナり^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

あ^ナら^ナせ^ナり^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

六十一番

左

貞香

あ^ナら^ナせ^ナり^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

右

延々

あ^ナら^ナせ^ナり^ナて^ナ泣^ナき^ナて^ナも^ナあ^ナら^ナず^ナに^ナあ^ナら^ナせ^ナり^ナ

字にふれ終るをわしむるに
むらさきとていふ

五十五番 山家松

左 常良

さるる河のうらまをわしのこころに
あはれむ

右 船棟

あはれむをわしのこころに
あはれむ

けふのこころに
あはれむ

五十六番

左 家行

あはれむをわしのこころに
あはれむ

右 憲家め

あはれむをわしのこころに
あはれむ

あはれむをわしのこころに
あはれむ

あはれむをわしのこころに
あはれむ

五十七番

左 貞蔭

あはれむをわしのこころに
あはれむ

右

延明

おのれのゆゑに絶るる心はこれ程のまじく山陰の山

あまの物と海と

五十八番

左

貞香

あすのふねを河の舟にのりてあはれとて心は山陰の山

右

延誠

おのれの心は河の舟にのりてあはれとて心は山陰の山

又まの物と海と

五十九番

左

延良

おのれの心は河の舟にのりてあはれとて心は山陰の山

右

秀長

おのれの心は河の舟にのりてあはれとて心は山陰の山

勝芳の心

六十番

左

行信

おのれの心は河の舟にのりてあはれとて心は山陰の山

六十九番

左

貞香

思ふし程にわあつてよのきおきしひぬのち流るる芳ありけり

右

延誠

夏の沖へ通ふをかりのおよひにふもくわあつてふーかーらる

八十八番

是しおきし河国をまほす方なり

七十番

左

貞蔭

おそげのくだのきおは着けんとて海へぬまうひて

右

延明

左へと帰しとてはの波流るるゆゑのふゆとよふゆと

なすちるまればおとては

ぬきまのくわくえんおまを御方なり

七十一番

左

家行

あまのいおたかまそなふれぬるもしるるあまの

右

寛家廿

今まのわあつては^{そん}後^あつてふーかーらるる

不竟改字、年廿二、富二、
少海、
かあ、
い、
と、

い、

い、

い、

い、

